

豊かな旭を次世代へ



旭市長
米本 弥一郎

平成17年7月1日に旭市、海上町、飯岡町、干潟町が合併して誕生した「旭市」は、今年で20周年を迎えました。この記念すべき節目を、市民の皆さまと祝えることを大変うれしく思います。

この20年間、豊かな自然や地域に根差した伝統文化、人々の絆を大切にしながら、数々の困難を乗り越え、着実に歩みを進めてまいりました。今日があるのは、まちの礎を築いてきた先人たちの情熱とたゆまぬ努力の賜物であり、深い敬意と感謝の念に堪えません。互いに支え合いながら、希望を紡いできた人々の歴史こそ、旭市の誇りであると強く感じているところです。

私たちを取り巻く環境は大きく変化し、人口減少や少子高齢化、気候変動による生活への影

響などの課題に直面しています。そのような中で、まちが輝きを放ち続けていくためには、市民一人一人の郷土愛を育み、それぞれが持つ知恵と力を結集していかなければなりません。

子どもたちや若者が夢を描き、生涯にわたり安心して住み続けられるよう、これからも「チーム旭でまちづくり」という合言葉の下、誰もが健康で心豊かに暮らせる「ウェルビーイング」の向上を目指して、市民の皆さまと力を合わせ取り組んでまいります。

この20年という節目を新たなスタートとして、次の10年、20年先の次世代へ豊かな旭をつないでいくために、全力を尽くしてまいります。今後とも、市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

ありがとう20年。そして始まる新しい物語。

Anniversary



旭二十年の結実、未来へ



旭市議会議長
飯嶋 正利

旭市20周年を迎えるに当たり、市議会を代表して心からお祝いを申し上げます。

新市発足以来、私たちは海と大地の恵みに感謝し、その力を礎に着実な歩みを重ねてまいりました。学校の耐震化、公園の整備、観光の振興、災害に強いまちを目指す防災、子育て・教育環境の充実、スポーツ・文化交流の拡大、そして農水産業の高付加価値化や地産地消の推進。これら数々の施策は、ひとえに市民の皆さまのご尽力の結実であります。

平成23年3月の東日本大震災、令和元年以降の新型コロナウイルス感染症の流行など、幾多の困難に直面した折には、地域の絆と支え合いが復旧・復興の原動力となりました。

これまで旭市の発展にご尽力された皆さま、関係機関の皆さま、そして何より市民の皆さまに、謹んで感謝するとともに敬意を表します。

市議会においては、地方分権の進展に伴い、その役割と責任は一層重くなっており、多様化する民意を的確に集約し、市政へ反映することが求められております。

現在、議員のなり手不足が各地で懸念されている中、我々市議会は、主体的・持続的な議会改革を進め、市の重要な意思決定機関として、市民にとって魅力ある議会をつくる必要があります。これからも市民の皆さまの声に真摯に耳を傾け、市行政としっかり議論を重ね、旭市のさらなる発展に邁進してまいります。

Asahi City 20th

